

大腸癌研究会プロジェクト  
『pT1 大腸癌のリンパ節転移の国際共同研究』

研究 1 (日米共同) pT1 大腸癌における「内視鏡摘除後の追加治療の適応基準 (大腸癌治療ガイドライン)」の検証とリンパ節転移リスク算出 tool の作成

研究 2 (日英共同) pT1 大腸癌のリンパ節転移のリスク因子に関する研究 (Formula One Study)

## 第 17 回会議議事録

2026 年 1 月 22 日

浜松町コンベンションホール メインホール A + web

### ■出席者 (50 音順、敬称略)

- 委員長 防衛医科大学校外科：上野 秀樹
- プロジェクトアドバイザー 兼国際共同研究の研究責任者：杉原 健一 (欠席)
- 委員 (50 音順)：秋元直彦、秋吉高志(欠席)、池松弘朗、石黒めぐみ、石田和之(欠席)、石原聡一郎(代理：佐々木和人)、市川一仁、浦岡俊夫、大沼忍、岡志郎、奥山隆、勝又健次(欠席)、金光幸秀、河内洋、小嶋基寛(欠席)、小林宏寿、小森康司、斎藤彰一、齋藤裕輔(欠席)、斎藤豊、坂本一博(欠席)、島崎英幸(欠席)、下田忠和(欠席)、菅井有(欠席)、関根茂樹、高松学、立石陽子、田中信治、田丸弓弦、富樫一智、中井啓介、永田信二、中村好宏(欠席)、二村聡(欠席)、橋元幸星(欠席)、藤盛孝博(欠席)、堀田欣一、松下弘雄(欠席)、松田健司、南真平、山田一隆、山田真善、山野泰穂(欠席)、吉田直久、梶原由規(事務局)
- オブザーバー 59 名

### ■会議内容

#### 1. 研究 1 (Nomogram study)

##### (1) 進捗状況について

事務局より副次的解析について、これまでに 4 編 (新たに J Gastroenterol 誌に accept された『Predictors of lymph node metastases, recurrence, and survival in patients with pedunculated type T1 colorectal cancer: a retrospective analysis: A nationwide, multicenter study』を含む) が公表され、3 編が投稿中、1 編が委員供覧中、3 編が投稿準備中であることが報告された。その他の現在進行中の副次的解析 7 件について進捗状況を確認した。

##### (2) Ip 大腸癌で LN 転移リスクが皆無にもかかわらず再発した症例について

新規に公表した副次的解析において再発を認めた 13 例の Ip 症例の内、半数強は LN 転移リスク因子のない症例であった。この原因として粘膜筋板が錯綜するもののみで判定されるべき head invasion が適切に評価されていない可能性が懸念されるため、新たに研究計画を作成してリスク因子が皆無で再発した症例のプレパラートを集積し、中央判定で病理所見を確認することがアナウンスされた。

## 2. 研究 2 (F1 study)

### (1) 進捗状況について

事務局より、評価対象として確定した 1005 例の病理評価について以下の結果が提示され、この公表方向について昨年 12 月に開催された病理小委員会での以下の合意内容が紹介された。

- SM 浸潤度について

本研究で LN 転移の低リスク群の選別に非常に良好な結果を得られたため、本プロジェクト研究の委員が行った SM 浸潤度の計測法を規約改訂に反映させる。

- 浸潤度以外の量的因子について

適切な cut-off を設定することで LN 転移には関連する可能性があるものの、切り出し方法などによって変動し得るパラメータであり、測定上の問題があることに留意する必要がある。

- 簇出 (BD) および低分化胞巣 (PDC) について

T1 大腸癌における LN 転移リスクを評価するために BD に加えて PDC を評価すべきかどうかを議論する上で、多変量解析などで両者の交絡に関するデータを得ることが必要である。

- 組織型の評価方法について

対物 40 倍視野を指標とした最低分化度は再現性が高く、LN 転移高リスク群の抽出に有用であることが確認できたため、規約に盛り込むべきである。

一方、最低分化度を加味した低リスク T1b 症例のリンパ節転移率は、味岡プロジェクトでの検討結果より高く、最低分化度を加えるのみでは T1b 症例における LN 転移低リスク群の抽出には不十分である可能性が示唆された。

### (2) 副次的解析について

事務局より現在 7 つの副次的解析を予定しており。そのうち、BD および PDC の有無 (GO) に関する副次的研究について、本邦以外の 7 か国が参加する国際研究となることが報告された。加えて本邦でこの国際研究に参加を希望する病理医を募集することがアナウンスされた。

## 3. その他

事務局より 4 月頃を目途に新たに副次的研究に参加となった委員の追加と研究機関の延長に関するプロトコル改訂を予定していることが連絡された。研究 2 に関して新たな副次的解析や病理判定への参加を希望する場合は 3 月までに事務局に連絡することが周知された。